

平成 30 年度 第 2 回とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 議事要旨

日時：平成 30 年 11 月 9 日（金）

13:30～15:00

場所：富山県庁 4 階大会議室

■ 出席者

【委員】

上坂委員、梅木委員、大野委員（代理：中谷市民環境課長）、沖委員、木内委員、楠井委員、田瀬委員、張委員、永森委員、南部委員、福濱委員、藤井委員、藤本委員、水野委員、横越委員

【事務局】

須河生活環境文化部長、今井生活環境文化部次長、松本県民生活課長 ほか関係課担当職員

.....

■ 会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 「とやま 21 世紀水ビジョン」の見直しについて

(2) その他

4 閉 会

.....

(1) とやま 21 世紀水ビジョンの見直しについて [事務局説明]

【議長】

水ビジョンは、「流域水循環計画」として国から認定を受けており、さらにその位置づけをしっかりとするのであれば、もう少し流域という視点も入れればいいのではないか。

【委員】

SDGs ということが最近出ているが、それとの関連性、全体を通してどういうふうに SDGs と関連させてビジョンを構築していくかということに言及があったほうが、世界的な流れの中での位置づけということがわかるのでないか。

【委員】

17 頁「用途別の水需要」の図について、全体で 100%になっており、農業用水が、使われる水のほとんどを占めているように見える。農業用水として使われた後、生活用水など、

いろいろな使い道がされていることもわかるように、図に書かなくても、そういう記載をしていただきたい。

#### 【委員】

農業関係で、小学生の勉強の一環として、用水の生き物調査というのを全県的にやっている。水の少年団のような方向があるとすれば、そういう活動の中の一貫に位置づけていただくと、系統だった生き物関係のマップができたり、時間経過をおいての生き物の存在を勉強したりもできるなど、全県域的な統一のまとめができるのではないか。

#### 【委員】

4 頁に記載されている“水ビジョンの役割”に「関係者が連携して活動する際の行動の指針」という記載があり、その前文には「流域ごとの水循環系を健全に保つために」とある。流域別の取組みの参考になるような資料がついていれば、非常にありがたい。

黒部市では、「黒部川水の少年団」というものを、毎年、小学生を対象とした学習の一環としてやっており、黒部川水系でいろいろな調査をして、研究発表をするなどの活動をしている。そういった活動は黒部市だけではないと思われるので、そういう学習活動をピックアップした参考資料があれば、このビジョンを見る方々に、子供に対して、そういうふうに教育しているのだなということが伝わりやすいのではないか。

55 頁“海岸漂流物対策の推進”に、「海岸の清潔の保持に向け、沿岸市町や地域住民、民間団体の連携のもと」という記載があるが、県が作っている「富山県海岸漂着物対策推進地域計画」の中では、国、海岸管理者という表記もあり、国も取り込んだ対策、連携とした方がいいのではないか。

#### 【議長】

元号の問題をどうするか、西暦に統一するか、平成〇〇年と併記するような形にするのかも考えていただきたい。

#### 【事務局】

最終的には、統一した表記の基準を作り、わかりやすいようにしていきたいと思います。

#### 【議長】

用語集は作るという話だが、できたら索引を作るといいと思う。例えば BOD という言葉を見たいときにどこを見ればいいのか、調べたいところがパッと出てくるような索引があった方が、一般の人にはとっつきやすい。

### 【委員】

各県の小水力発電の実施状況は、ほとんどわかっていない。富山県が唯一、非常に細かな小水力発電所まで押さえている。これから、全国の小水力発電所の正確な把握が急ピッチで進んでいくと思われるが、そういう意味で、富山県の小水力発電所の実施状況というのを載せられてもいいのではないか。特にFIT以降、最も小水力発電所の建設が進んでいるのは富山県であり、十分に誇れる内容のことだと思う。農業用水（を利用した小水力発電）は、今、特に進んでおり、全国でも指折りの小水力発電県になっているので、アピールをしてもいいのではないか。

小水力発電設備について、低コスト化、研究開発の推進というようなことが記載されているが、小水力発電設備というのはこの場合、何を指しているのか。低コスト化を進めるという意味が、どういうことをしていこうとしているかというのは、小水力発電関係者はものすごく気になるはずである。

### 【事務局】

マイクロ発電にまで視野を広げると、例えば、富山県土地改良団体連合会がいろいろと研究されていたりする。そういうことへの協力なども含めての表現と理解していただきたい。

### 【委員】

汚水処理に関して、BODなどはわかるが、リンとか窒素に言及されていない。例えば瀬戸内海、最近行き過ぎた環境保全で透明度が非常にあがって水産の漁獲が減ったということがある。要するに不必要にリンと窒素を切ってしまったということである。

富山県では農耕地が13%減り、先ほど取水量が減ったとあったが、実は涵養量も減っている。水というのは、2つ意味持っており、1つは量、もう1つは質だが、全般的に量に関しての描写が若干弱いと感じる。

46頁の富山県の水循環と水利用状況の図の水利用量（水需要現状調査）と地下水利用量（地下水実態調査）のデータが15年前のデータであり、更新はできないか。

### 【事務局】

いろいろとデータを探したのですが、（同じ条件でデータを）揃えるのは難しい。

### 【委員】

水ビジョンの印象だが、防災、利水、ハード面の雰囲気はかなり強く出ており、県民の顔が見えないという印象を持つ。水辺というのは県民生活の中でも非常に身近な存在であるので、人間が生活している場であるというようなところもちょっと見え隠れした方がいいのではないか。

先日新聞に、用水に落ちて亡くなる方が、富山県が全国で2番目に多いということが載っていた。水辺環境の安全について、54頁にちょっと触れてあるが、安全対策をもっと具体的に盛り込めば、県民に水辺の安全にも配慮しているということがわかってもらえるのではないかと。

20頁に富山湾の生物多様性のことが記載されているが、他の湾と比較して多様という表記になっている。他の湾といってもあまりないと思われるので、深いところに冷水があって、上の方に対馬暖流が流れて、その上に河川水が流れているような、多様な環境があるので、比較的生物層も多様であるというような言い回しのほうがいいのではないかと。

34頁に棚田の保全についての記載があり、保安林の保全などには言及しているが、里山集落周辺の二次林は荒れ放題であり、イノシシやニホンジカなどが入ってきて、道路が壊れたりする被害がかなりある。それを富山県全体で捉えると、被害はかなり大きくなると思われ、そういった場所が崩れると、いよいよ災害に繋がったりするなど、これからの富山県が抱える、目に見えない課題だと感じられる。棚田の保全に獣害対策なども盛り込んで配慮していけばどうか。

#### 【委員】

今年の大雨を見ても、地球温暖化が進むことによって10年前、20年前と雨の降り方が全然違っているというのがわかる。また雪についても、地球温暖化すると雪が増えるといった予想もある。そういった観点から、今回治水・利水や雪害とかいったところに、最近の事象も含めて書き込まれたのはいいことだと思う。

#### 【委員】

今、海外を見ると、富山のアルプスの雪を見においでになる方が中国、台湾、アジアから非常に多く、日本を代表するそういう環境がある富山というのは、ローカルでありながら、自然のきれいなところだという評価が出ている。水ビジョンにある総合的な水の魅力を活かした観光の振興、もう個々のものは出来上がっているような気がするので、それを総合的にプランニングして、世界の方々に富山に来ていただいたり、あるいは富山の水を世界で飲んでいただく、あるいは医薬品を世界で使っていただけるような環境づくりをしていただきたい。

#### 【委員】

水ビジョンを機能させていくというところもまた重要だと思うので、その辺も検討していただきたい。

#### 【委員】

山村部などで生活しておられる方は山をお持ちだが、そこでなかなか住めなくなっており、森林の環境を保つということを、自分たちのレベルでなかなかできなくなっている。

この水ビジョンの素晴らしい中身やいろいろな届出をしなさい、こうしてああしてというのはわかるが、身近なところでは、それをちゃんとやりたくてもできない現実があり、本当に県民一人ひとりというところをフォローしていけるような形で構築していければいいと思う。

#### 【委員】

54 頁に河川のごみの対策についての記載がある。高岡の中心街を流れている千保川という川があり、高度成長で工場ができて、汚染された水などが流れて、本当にまったく駄目な川になったのを、一生懸命、清掃したり、鮭の稚魚を流したり、色鯉を放流したりした結果、15 年余りで大きくなった鮭が戻ってくるほどきれいになった。

一番の悩みは、清掃していても、上流から草とか発泡スチロールとかいろいろなものがどンドンと流れてきて、それをどうしたらいいのかとういことで、自分たちの場所だけで清掃していても、解決する問題ではないと思う。

#### 【委員】

富山の高低差は全国でナンバーワンの資源だと思っており、水も一番は富山だと思う。その水はぜひとも大事にしてほしい。

3,000mの山、山の上の気候は、北緯 67 度の北極圏に相当する。一方、対馬暖流は亜熱帯の北緯 13 度発生ですから、この富山県は半分の地球を網羅しているに等しく、豊かさの源はそこにある。こういったことは、ぜひとも自慢して（水ビジョンにも）使っていただきたい。

#### 【委員】

特に水循環ということからみると、先ほどあった農業用水の問題も、いろいろ使った水を何回も使いまわして、工夫しながら使っているのは、素人ではなかなか見えてこない。

水の循環というのは、水自体が循環して、人も循環利用しながら水を使っている、非常に水は豊富なんだけれども、繰り返し利用して、水を本当に有効に利用しているところをわかるようにしてもらいたい。

富山県全体が 1 つの水循環系と見えないこともないが、小矢部川とか黒部川、それぞれ川の個性というものがあり、流域の課題はあるはずで、長所なりあるいは問題点を抽出して、それぞれ解決していくということをすれば、自分の住んでいるところとの関連というのがよくわかるのではないかと思う。

49 頁の冒頭で合流式下水道の改善を促進するということが記載されているが、合流改善事業がほぼ進捗して終わっていると思うので、今後まだ改善の余地があるのか確認してほしい。

### 【委員】

先ほど言われた流域、富山県でも随分違うので、それがどこかに記載されていればいいと思う。

### 【委員】

私たちは、素晴らしい（水）環境の中にいるわけだが、最近、富山県にあっても異常気象、これが予測できないような形で、台風であったり、風向きが昔とは違う。水を活かすイコール素晴らしい環境と確かになるが、これから起こりうる、または予測できないような異常気象等について、もう少し盛り込んでほしい。

### 【委員】

このビジョンができれば、県民の方々はこのビジョンを見て、自分はどう取り組めばいいのか、どうしてもらいたいのかというところが見えてこない、役に立たないのではないかと思う。県民の皆さんがこれを見て、自分たちで活動したいというところまで漕ぎつけられるような、そういう仕組みづくり、制度づくりなりを考えていただきたい。例えば、県民の皆様こういうふうに取り組んでくださいねとか、こういう活動、行動してくださいとかというようなものがあればいいのではないか。

### 【委員】

水資源を考えたときに、量を増やす、質を高めるという話になると、必ず森林に対しての期待が高まってくる。

ただ森林というのは、量に関してみれば、山が老齢林になれば、例えばブナが生えて、どんどん成長していけばいくほど、ブナ自体の葉っぱからの蒸発散量は増えますし、自己の消費量も増える。ですから育てれば育てるほど、皆がいい山だねって言えば言うほど、実は土中とか川への還元量っていうのは少なくなる。量的に、皆がいい山だと言うほどの還元量というのは、データの的に出てこない。

また質に関しても、広葉樹林をいっぱい増やせばその下流域、また海で、例えば漁獲が豊かになるとかいった話がありますが、データの的に追いかけていけば、たしかにミネラルの量は増えるのですが、それが決定的に漁獲量を増やすほどのものかということ、桁が1つも2つも違う。

森林整備をすれば、たしかに水資源は確実に良くなるが、一般の方々が期待されるほどと、森林だけで解決できるレベルではない。

そういった視点で、とやま21世紀水ビジョン、素案を見ると、科学的な視点であまり書き過ぎておらず、よいレベルで記載されているのではないか。

### 【議長】

サブタイトル「恵みの水が美しく循環する“水の王国とやま”」だが、「循環する」よりも「活かされる」というのはどうか。

循環という言葉は、イメージはいいかもしれないが、実際には、反復利用とかそういう

こともあり、利用していることが現れないので、「活かす」としたほうが、いろいろとご意見いただいた観光などにも少なからず繋がってくるのではないかと。

## (2) その他について [事務局説明]

### 【事務局】

今日頂戴いたしました意見を反映、また修正を加え、12月にはパブリックコメントや市町村への意見照会を実施する予定です。その後2月上旬ぐらいには3回目の推進会議を開催させていただきまして、最終案等を審議していただき、3月には改定、4月から新ビジョンをスタートさせたいと考えています。

以 上